



○研究の目的

学習指導要領の改訂により、外国語教育の抜本的改革が示された今、小中学校における外国語活動・外国語科の指導方法の工夫・改善と研修・研究の充実が喫緊の課題であると捉えている。

海老名市では、小中学校外国語教育の強化・接続・連携を図り、海老名市の特性を生かした独自の新しい外国語教育を推進する。



○研究指定校の研究テーマ・研究内容及び成果

海老名市立今泉小学校

研究テーマ 「進んで取り組み、互いに学びあう児童をめざして」～外国語活動の指導法の工夫～

【研究内容】

- 新学習指導要領実施を見通した資質・能力の育成
- 平成30年度までの研究成果の一般化
- 高学年における教科化後の授業モデルの立案

【成果】

教職員間でめざすべき児童像、めざすべき英語の授業像について共有できたことは大きな成果である。「情動を伴った言葉のやり取り」「言語活動」の大切さを、実感を伴って理解することができた。



海老名市立上星小学校

研究テーマ 「外国語に親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成」～伝え合う喜びを感じることができる活動の工夫～

【研究内容】

- 担任主導の授業づくりと授業展開の研究
- 主題に迫り、児童の意欲を引き出す活動や教材・教具の工夫と開発
- 6年間の系統と中学校への連携を踏まえた指導方法の研究

【成果】

英語に慣れ親しみ、コミュニケーションを楽しむ児童の姿が見られた。また、今後系統性のある充実した指導を継続していくために、「6年間で育てたい子どもの姿」の共通理解を図ることができた。



海老名市立今泉中学校

研究テーマ 「様々な人とコミュニケーションを楽しみ、豊かな人間関係を築く力の育成」～全国学力・学習状況調査を活用した授業づくり～

【研究内容】

- 「自ら学ぶ気持ちを育てる」「自己有用感を高める」ための活動、指導の工夫
- 小学校・中学校の連携・接続、小学校での学習を踏まえた指導方法の研究
- 全国学力・学習状況調査を活用した授業づくりの研究

【成果】

目的と見通しを持ち積極的に学ぶ姿、共に学び合う姿が見られるようになり、生徒の主体的・対話的な学びが育まれてきた。また、小学校・中学校の連携が図られ、小学校での学習を踏まえた指導を実践できた。

